

シュロダー グローバル市場見通し

2019年
8月

マルチアセット運用チームによる各金融市場の月次見通し

見通しの表示：++強気、+やや強気、0中立、-やや弱気、--弱気
矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ

株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
			
中央銀行のハト派姿勢は支援材料であるものの、足元でのモメンタムの低下や減速する経済成長を背景に見通しを中立で維持しています。	バリュエーションの魅力度は低減していますが、モメンタム（勢い）が堅調であることに加え、経済指標が景気の減速を示唆していることは、国債にとって支援材料であることから、やや強気の見通しを維持しています。	テクニカル面での下支え、および足元でのクレジットの穏やかな推移は、クレジット・クオリティを巡る長期的懸念を相殺すると考えることから、やや強気の見通しを維持しています。	モメンタムは低迷が続いているものの、地政学リスクに対するヘッジ手段として金の見通しをやや強気としており、コモディティ全体の見通しは中立を維持しています。

資産クラス	分類	見通し
株式	米国	 バリュエーションの魅力度は低減しつつあるものの、モメンタムが他の主要国株式市場と比べ相対的に堅調であることから、やや強気の見通しを維持しています。
	欧州	 米連邦準備制度理事会（FRB）のハト派姿勢がドル安（ユーロ高）をもたらす場合、今後の企業業績見通しの重しとなる可能性があります。足元では中立の見通しを維持しています。
	日本	 国内経済は改善がみられるものの、輸出の低迷および円高が引き続き懸念材料となることから中立の見通しを維持しています。
	アジア太平洋（除く日本）	 シンガポールの輸出の低迷が引き続き足かせとなっているほか、モメンタムについても出遅れ感があり、今後の動向を見極める必要があることから見通しを中立としています。
	新興国	 ↓ 米中貿易摩擦懸念の高まりは、輸出関連を中心に新興国市場にとってリスクとなることから、見通しをやや強気から中立に引き下げました。




シュローダー グローバル市場見通し




2019年
8月

資産クラス	分類	見通し	
国債	米国		経済見通しは引き続き減速傾向を示しており、米中貿易摩擦懸念も依然として残ることから、やや強気の見通しを維持しています。
	欧州 (ドイツ国債)		流動性の拡大、投資家が現金よりも高い利回りを模索する動き、欧州中央銀行（ECB）への金融緩和期待は、より長期の国債にとって好材料であると判断する一方、超長期国債以外の利回り低下余地は限定的と考えることから見通しを強気からやや強気に引き下げました。
	新興国 (米ドル建て)		FRBのハト派姿勢は短期的には支援材料となるものの、引き続きバリュエーションの魅力度は低いと判断、中立の見通しを維持しています。
	新興国 (現地通貨建て)		主要国中央銀行による緩和姿勢は、投資家による利回りを模索する動きを強めることから、見通しをやや強気で維持しています。
	インフレ連動債		原油価格の低迷がインフレ上昇圧力を抑制することが見込まれるため、やや強気の見通しを中立に引き下げました。
投資適格社債	米国		テクニカル面で堅調な推移が続いていることに加え、バリュエーションの魅力度が相対的に高いと判断することから、中立の見通しをやや強気に引き上げました。
	欧州		レバレッジの水準の上昇による業績悪化や利払い増加は潜在的なネガティブ要因とみることから、やや強気の見通しを中立に引き下げました。
ハイイールド社債	米国		クレジット・クオリティを巡る懸念材料は依然として残るものの、テクニカル面での下支え、および足元でのクレジットの穏やかな推移により相殺されると考えることから見通しを中立からやや強気に引き上げました。
	欧州		バリュエーションの魅力に乏しいと考えるほか、ファンダメンタルズ悪化が懸念されることからやや強気の見通しを中立に引き下げました。

シュロダー グローバル市場見通し

2019年
8月

資産クラス	分類	見通し
コモディティ (商品先物)	エネルギー	 地政学リスクの高まりが世界景気減速懸念による影響を相殺すると考えることから、中立の見通しを維持しています。
	金	 FRBのハト派姿勢が支援材料であるほか、中東での地政学リスクの高まりを背景にモメンタムが堅調であることから、引き続きやや強気の見通しを維持しています。
	産業用金属	 景気サイクルにおける立ち位置を踏まえると産業用金属価格の上昇幅は限定的と見込まれる一方で、中央銀行によるハト派姿勢や中国の財政刺激を考慮すると下落幅も限定的であると考えことから中立の見通しを維持しています。

資産クラス	分類	見通し
通貨	米ドル	 世界経済成長がさらに減速する可能性や、各国中央銀行の利下げ実施によるボラティリティの上昇や方向感に欠ける市場の動きが見込まれるため、やや強気の見通しを維持しています。
	ユーロ	 ECBの金融政策の緩和姿勢の強化は、ユーロにとってマイナス要因ではありますが、引き続き中立の見通しを維持しています。
	日本円	 経済の低迷が続く環境下、安全資産としての日本円への需要が高まると考えることからやや強気の見通しを維持しています。

出所：シュロダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレージョン・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュロダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュロダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュロダー/Schrodersとは、シュロダーplcおよびシュロダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。